

令和3年3月30日
健康福祉局

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和3年3月22日（月）～3月28日（日）（令和3年第12週）

	指標	数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	165人	142人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	10.78人	9.28人	2.5人未満 (※1)
(3)	週当たりの陽性者増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	1.16	1.14	<1(※2)
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	46%	55%	50%未満 (※3)
(5)	直近1週間の陽性率(※4) (陽性者数/検査実施人数)	4.79%	4.17%	—
(6)	入院中の患者数(※5) (疑似症患者を含む)	76人	93人	感染症患者受入病床 298床
(7)	入院中の患者のうち重症者数(※5) (疑似症患者を含む)	9人	6人	重症病床 30床
(8)	全療養者数(※5)(入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計(疑似症患者は含まない))	197人	206人	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用

※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用

※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)

※4 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

※5 3月28日(日)現在の報告数（前週分は、3月21日(日)現在の報告数）

2 評価

令和3年3月22日（月）～3月28日（日）（令和3年第12週）の川崎市内におけるモニタリング状況は、以下のとおりです。

(1) 新規陽性者数は、1月4日～1月10日（第1週）の1123人をピークとし、第9週

は120人まで減少しましたが、前々週（第10週）は125人、前週（第11週）は142人、そして今週（第12週）は165人と微増が続いています。

(2) 直近1週間の人口10万人あたりの累積新規陽性者数も、同じく1月4日～1月10日（第1週）の73.40人をピークに、第9週7.84人まで減少しましたが、その後第10週は8.17人、第11週は9.28人、そして今週（第12週）10.78人と微増が続いています。目安基準（神奈川警戒アラート）の2.5人未満は上回ったままとなっています。

(3) 週当たりの陽性者増加比は、同じく第1週の2.08をピークに、第9週0.82まで減少しましたが、第10週は1.04、第11週は1.14、そして今週（第12週）1.16と微増が続いています。第10週から目安基準1以下を上回ったままとなっています。

(4) 直近1週間の感染経路不明者の割合は、第9週までは40%前後でしたが、第10週53%、第11週は55%と上昇しましたが、今週（第12週）は46%と再び低下、目安基準50%未満も再び下回りました。

(5) 直近1週間の検査陽性率は、第9週3.32%から、第10週3.66%、第11週4.17%、そして今週（第12週）は4.79%と微増が続いています。

(6) 入院中の患者数は、直近1週間の新規陽性者数のピーク（第1週）に2週遅れた1月18日～1月24日の週（第3週）182人をピークとして減少が始まり、第9週126人、第10週117人、第11週93人、そして今週（第12週）は76人と減少が続いています。

(7) 入院患者のうち重症者数は、第1週の31人をピークとして、その後減少し、このところ10人前後が続き、第9週9人、第10週は11人、第11週は6人でしたが、今週（第12週）は9人と増加しました。

(8) 全療養者数（入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計）は第3週の2901人をピークとして減少し、第9週は202人、第10週は190人まで減少しましたが、第11週は206人とやや増加し、今週（第12週）は197人と再び減少しました。

(1) 全体の新規陽性者数、(2) 直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数、(5) 直近1週間の検査陽性率は、第10週から微増傾向となり、今週（第12週）も微増が続いています。一方、(3) 週当たりの陽性者増加比はほぼ停滞、(4) 直近1週間の感染経路不明者の割合は低下しました。その結果、(2)、(3) に設定されている目安基準はいずれも上回り、(4) の目安基準は再び下回りました。

(6) 入院中の患者数は、今週も減少、(7) 重症患者数は若干増加し再び横ばい状態 (8) 全療養者数についてはこれまでの減少から前週（第11週）はやや増加しましたが、今週（第12週）やや減少し、このところ200人前後で停滞しています。

関東1都3県についての緊急事態宣言は3月21日をもって解除されましたが、首都圏では陽性者数の微増傾向が続き、全国的には明らかな増加傾向となっている自治体もあります。

本市におきましては、これまでの陽性者の発生状況は、お正月明け頃の第1週をピークとして減少が続きましたが、第10週あたりから微増傾向が続いています。一方、入院あるいは宿泊療養・自宅療養者に対する医療は、この4週間で落ち着きを取り戻しつつあります。現在の陽性者数から若干の増減程度で停滞するのであれば、本市においては入院患者の受け入れと治療、その他の通常医療については落ち着いた状態で行うこと

ができますが、このまま陽性者数の増加が続く（リバウンド）となると、そこから1～2週間遅れて入院患者数の増加が見られてくることが予測されます。本市では患者数増加に備えてさらなる病床や宿泊療養施設の確保を図っておりますが、なんとか陽性者の急増は避けたいところです。

これまでに多くの市民の方々のご理解とご協力の賜物で、市内の状況は少し安心して頂けるところまでできましたが、安心が油断となり、気が緩んでしまうと昨年12月の状態に戻ってしまうことが心配されるところです。

桜も満開となり、陽気の良い日も増えてきますが、人の増加と感染症の増加はつきものです。どちらかへお出かけになる時には、混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされますよう、よろしくお願いいたします。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、飲食の場あるいは日常生活において、感染の拡大を予防するための基本的なかつ重要な注意点です。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、インフルエンザをはじめとする感染症の流行は全国的に明らかに低下し、また昨年1年の国内での全体の死亡数は一昨年に比べると0.7%減少しました。ことにコロナ以外の肺炎による死亡数は、昨年10月までの時点で前年同時期より約1万4千人減少しています。新型コロナウイルス感染症への警戒はこんなところに良い点が出てきているのかもしれませんが。一方、子どもたちの定期予防接種の一部については未接種者の増加や、がん検診などの受診率も低下しているところがあります。日常の健康への注意もどうぞお忘れなきようお願いいたします。